



植物で心身のリハビリ

阪神・淡路大震災後、がれきに覆われた街で、ふと目にした木や草花に癒やされた記憶がある。そんな植物の持つ力を、心身に障害のある人たちの治療に生かす取り組みが広がっている。マンツーマンで、一人につき一回、二十分から三十分ぐらい指導している。法士だ。中西保太郎さん。会ひは兵庫県が認定する園芸療法士として、神戸市内の病院で患者と向き合っている。かかわったらいいか、難しい。



仕事のいま

いる。◆◆
園芸療法は単に花を植えるというだけでなく、その人に応じた目標を設定し、QOL(生活の質)を高め、この手という感じ。そのことなどを目的にしています。例えば、花や野菜の種まきをして育てる、花の苗の寄せ植えをする、という行錯誤の状況ですね。

- 一人一人目標を設定します。
- 効果を証明するため、科学的データを収集中。
- 知名度アップも役割です。

園芸療法士



女性患者が小さなポットに花の種をまいては、土をかぶせていく。時折、雑談を交わしながら、ゆっくりと作業は進む。この療法をリハビリとして本格的に導入している病院はまだ少ない。

女性患者が小さなポットに花の種をまいては、土をかぶせていく。時折、雑談を交わしながら、ゆっくりと作業は進む。この療法をリハビリとして本格的に導入している病院はまだ少ない。

園芸活動によって高齢者や心身に障害を持つ人の治療やリハビリを行う。米国や英国では治療法として認知されているが、日本で始まったのは1990年代以降とまだ新しい。統一資格がなく質もバラバラという実情だったが、兵庫は2002年から座学、実習合わせて2000時間とという専門教育と認定資格を確保し、今年4月に「一人間・本格的に育成する。」



私は県立淡路景観園芸学校の園芸療法課程の一期生で、一年間学んだ後、転職しました。勤務していた造園会社のリストラが直接のきっかけでしたが、阪神・淡路大震災を体験したことも影響しています。会社に残るよりも、緑化関係の仕事の経験を生かして、人の役に立つことをやりたいと決心しました。以前、研修旅行でオランダを回ったとき、収入は減ってもゆとりのある生活を国民が選択したというのを知った。日本もこれからそういう時代になるんじゃないかと考えたんです。

(村上早百合)

中西保太郎
なかにし・やすたろう
香川大学農学部卒業後、

造園会社、鳥取大付属施設の研究員を経て神戸市内の造園会社に約16年間勤務。退職後、2002年秋から03年

夏まで淡路景観園芸学校で学ぶ。神戸市長田区の適寿リハビリテーション病院に勤務。尼崎市在住。